



青島の風

青島日本人学校だより
令和元年 7月5日
校長 金森 孝子

詩との出会い

「さじなめて 童たのしも 夏氷」7月に入り、青島も本格的な夏のシーズンとなりました。青島では、夏の風物詩といえば「海水浴」ですが、この暑さの中、学校での水泳学習もより楽しめるものになるでしょう。今年度から、学校開放を4日間としましたが、子どもたちの成長が著しい季節である夏を、学習、スポーツ、様々な体験や貴重な経験を得る期間として、学校とご家庭が連携して、豊かに位置付けていきたいと考えています。

さて、「今月の詩」の取組も、学校として始めて6年目になりました。子どもの一生懸命な表現は、たとえそれが武骨な表現であっても、聞いているものの心を打ちます。私自身、子どもたちの表見を毎回楽しみにしており、数々の驚きと感動があります。冒頭の「さじなめて・・・」は、昨年度8月に出題した俳句ですが、子どもの何人かは、きっとなんだか聞いたことがあるような、懐かしいような気持ちになることでしょう。

一度読んだことのある詩は、出会ったときはよくわからなくても、心のどこかに残っていて、ある日ふっと蘇ってきます。そして、より鮮明にその詩の情景や心情が脳裏に浮かんだり、心の奥底に入っていくことがあります。光村図書出版「光村ライブラリー【中学校編】5」には、詩を次のように解説しています。「詩は短い、詩に込められたドラマは奥深い。そのドラマを創るのは作者だが、ドラマを仕上げるのは実は読者だ。読書の思いや感情がドラマを完結させる。だから、一つの詩であっても、読者の数だけドラマがある。」

7月の詩は「有名な詩を暗唱しよう」というテーマで、坂田寛夫作「ねこふんじゃった」と宮沢賢治作「11月3日」（いわゆる雨ニモマケズ、風ニモマケズ・・・）を出題しました。「今月の詩」の取組はささやかですが、出会いの記憶が子どもの歩みを支える一つとなって残っていくことを願っています。



体力テスト・持久走の取り組み

毎年、春と秋に実施している体力テストです。体力テストを行う目的は、学校教育・家庭教育・環境・時代の変化などの要因が、子どもたちの運動能力・体力に対してどう影響を与えたのかを計測し、より改善するための方法を模索するための資料として活用するためです。

本校でも、子どもたちの体力の現状を把握し、バランスのとれた体の育成のためにデータを活用しています。一部ですが、全国平均と比較してみると、ほとんどの学年で反復横跳び（敏しょう性）、立ち幅跳び（瞬発力）が優れていて、握力（筋力）が劣っていました。この結果を踏まえて、日頃の体育の学習の中に積極的に補強運動を取り入れながら、体力向上に向けて取り組もうと思っています。また、秋の体力テストに向けて、業間休みや昼休み等に積極的に体を動かしてほしいと思います。

体育主任 徳永 健治



6月には持久走記録会を実施しました。持久走といいますと、日本では冬場の体力づくりとして行われています。ここ中国（青島）では、空気の関係で冬場は外に出る機会が減るため、この時期に実施しています。小学部1・2年生は約1000m、3・4年生は約1500m、5・6年生は約2500m、中学部男子は約4000m、女子は約3000mの距離を各自の目標記録に向けて走りました。記録会当日は各学年とも、保護者の応援もあり、日頃の練習以上の走りを見せてくれました。子どもたちは、苦しくて「歩きたい」という気持ちと闘いながら、走りきることができ、終わった後の目的を達成した喜びに満ちた顔が印象的でした。

小学部5年宿泊体験学習

小学部5年担任 迎 香純

6月26日～28日にかけて、小学部5年生は宿泊体験学習を行いました。

1日目は、日系企業2社の工場見学です。青島月星靴業様では、靴のアップー部分の製造過程を見学しました。手作業で素早く丁寧にひとつひとつの部品が仕上げられる様子は、まるで職人技です。不良品と良品の検査体験もさせてもらいました。新日清製粉食品（青島）様では、唐揚げ粉や天ぷら粉などが製造される工程を見学しました。調理体験では、たくさんのドーナッツとうどんで、お腹も心も満たされたようです。

2・3日目は、山東朝日緑源農業高新技术様にお世話になりました。牛乳工場見学や、牧場見学をさせていただきました。自分たちで収穫した野菜でのカレー作りは、とくに思い出に残っているようです。どちらの班も美味しく仕上がりました。玉ねぎの袋詰め農作業では汗をたらしながら黙々と頑張り、農作業の苦労や大変さも肌で感じることができました。

どの工場でも、金属や異物混入を防ぐための徹底された管理が行われたり、環境にも人にも優しい循環型のシステムを導入したりと、安全・安心な商品を作り出すために様々な工夫がされていることに気づいた子どもたち。「感謝の気持ちを持ち、五感を使って学ぼう」は今回のスローガンです。お世話になった方々や、食に対して感謝の気持ちをもつことができた学びの多い3日間となりました。



児童生徒会活動

特別活動主任 尾崎 亮介

青島日本人学校では、小学生と中学生が同じ校舎で学んでいることを生かし、委員会活動に小学部5・6年生と中学生が一緒に取り組んでいます。児童生徒会も小学部5・6年生と中学生が一緒に取り組み、中学部の生徒会長・副会長、小学部の児童会長を中心に集会活動や毎月の活動にあたっています。

児童生徒会では、毎月の生活目標をより具体的にしようと、毎月サブテーマの立案とサブテーマに合わせた全校の取り組みを実施しています。また、今年度は、児童生徒会が中心となり、学校にある3つの階段の名前を決めました。青島

日本人学校や青島市の特徴を生かした名前の中から、みんながよく使う玄関横の階段を「ぱんたお」階段。体育館やプール側の階段を「海」階段。そして校舎の一番奥にある階段を「桜」階段と名付けました。この他にも、七夕集会や報告集会では、司会進行を務めたり、9月に行われる体育大会に向けてのスローガンの全校生徒から募集したりしています。

青島日本人学校の児童生徒が学校生活をよりよく過ごすことができるように、みんなのために考える児童生徒会を目指して活動に取り組んでいきます。



七夕集会 7月4日（木）～「ともだちランチ」のグループで七夕飾りと短冊を笹に付けました～